

Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第 **57** 号

平成18年 4・5・6月



国宝 重源上人坐像（東大寺）：特別展「大勸進 重源」より

特別展

御遠忌800年記念特別展
大勸進 重源
東大寺の鎌倉復興と
新たな美の創出
4月15日(土)～5月28日(日)
東・西新館

特別陳列

大和古物 (仮称)
今に生きる匠の技
6月10日(土)～7月9日(日)
東新館

平常展

仏教美術の名品
本館 7月9日(日)まで平常開館
西新館 6月24日(土)～
中国古代青銅器
本館 7月9日(日)まで平常開館

大勸進重源

— 東大寺の鎌倉復興と新たな美の創出 —

治承四年（一一八〇）の平重衡による南都焼き打ちにより、東大寺では大仏殿が焼け落ち、本尊盧舍那大仏が大破したのをはじめ、堂塔伽藍の多くが、内部に安置されていた諸尊像とともに灰燼に帰しました。その復興は困難を極めました。この間、造東大寺大勸進として諸堂・諸仏の再興に尽力したのが、当時すでに六十歳を超えていた俊乗房重源です。重源のもとで、大仏の再鑄や大仏殿の再建、仏堂内の諸仏の造立が果たされますが、その過程で、仏像の世界では巨匠運慶・快慶ら慶派仏師によって写実性に富んだ鎌倉彫刻が成立し、また建築の分野では大仏様と呼ばれる新しい様式が開花しました。東大寺外においても、東大寺再興のための拠点として播磨・伊賀・摂津・周防等に別所を設け、ここにも重源独自の思想にのっとった形式の仏像や舍利関係の工芸品などが納められました。

平成十八年（二〇〇六）は重源没後八百年の節目の年です。

これを記念して、

重源の肖像や重源が生み出した各種の美術作品、関連する様々な資料を一堂に会し、その文化史上の巨大な足跡を振り返ります。



●重源上人坐像（東大寺）



◎紺紙金字華嚴經（東大寺）



●水晶三角五輪塔（阿弥陀寺）

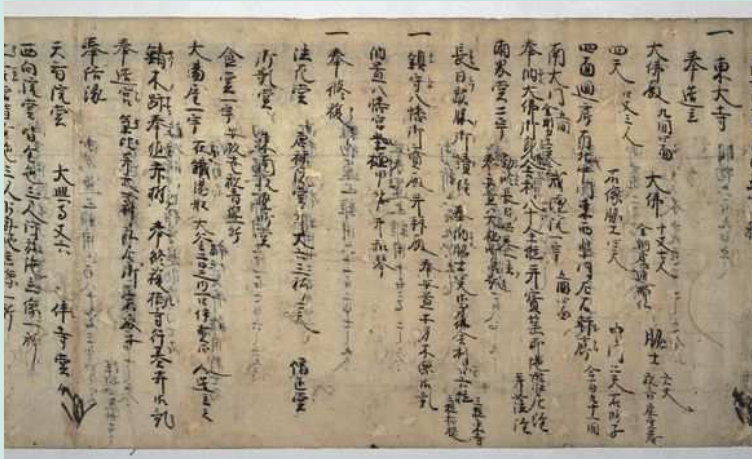


●僧形八幡神坐像（東大寺）



◎鉄宝塔（阿弥陀寺）

会場Ⅱ奈良国立博物館 東・西新館
会期Ⅱ平成18年4月15日（土）～5月28日（日）
主催Ⅱ奈良国立博物館、東大寺、朝日新聞社
協力Ⅱ日本航空、奈良テレビ放送、（財）仏教美術協会、奈良交通（株）



◎南無阿弥陀仏作善集（東京大学史料編纂所）



◎観経十六觀变相図（長香寺）



◎銅梵鐘（泉福寺）



阿弥陀仏手（アメリカ ハーバード大学サックラー美術館）



◎如来坐像（新大仏寺）



東大寺大仏殿銘軒平瓦（東大寺）

特別陳列

大和古物 今に生きる匠の技（仮称）

会場Ⅱ奈良国立博物館 東新館
会期Ⅱ平成18年6月10日（土）～7月9日（日）

平城京から平安京へ都が遷された後も、奈良は日本人の心のふるさとであり続けました。そこには、社寺を中心に、工夫を重ねて伝承された手技がありました。やがて明治維新を迎えると、新たな美術工芸を模索し、その原点を求めて奈良を訪れた人々と、奈良の匠との交流によって、伝統工芸の世界に新たな展開がみられました。千三百年に及ぶ奈良の長い歴史のなかで、もっとも見落とされがちだった近世と近代の美術工芸を、今もいきづく現代の匠の作品と併せて振り返ります。



海老熨斗鎮 奥田木白作



後高砂 森川杜園作



富士山香炉 安井出雲作

展 示 評

～外からみる奈良博～

東大寺公慶上人展に寄せる

こうけいしょうにん

春日大社権宮司 岡本 彰夫

近世の奈良を対象とした展示である事に、大いに期待を寄せて家族を伴い展覧会に赴いた。

丁度夕刻であったが、何やら会場がシーンとしていることに奇妙な感じを抱いて中へ入ると、多くの参観者が一様に足を留めて起立したままであった。これは何事と躊躇していると、正面中央に安置されている公慶上人の御像の前で、東大寺の橋村師による勤行が始まった。その凜とした声が場内に響きわたり、まさに荘厳。参観者全員が手を合わせる。

これぞ本物。これぞ心すべきことだと直感した。

場内に並べられた品々は、平素拝礼の対象となるものが多く、単なる「美術品」、単なる「資料」として扱われているという事に、訝しさを感じていただけに、こんな心で、見せていただくという、えも言われぬ雰囲気浸れたことが、かえつてとても新しい感覚であった。

物に秘められた思い。古人の営みを尊重する姿勢に対し、瞬時にして奈良国立博物館に対して、敬意を抱いた次第である。

お勤めが済んで、ゆつくり人々が動き出し、人の流れにそって足を進めた。

新しい発見が多く、公慶という僧の偉大さや、時代背景、事の顛末、そして大仏開眼、大仏殿再興という、かつて誰もがなしえなかった大事業が、細やかに且つ楽しげに展観されている。

公慶上人という強靱な精神を持った高僧の、面輪を真近に見、その遺物や足跡を詳らかにした品々に対して、まさに血の通う思いを持つし、全国から一堂に集められた展示の品は、おそらく価値を認められずに蔵されてきた物が多い筈である。それは公慶上人の知名度が余り

にも低すぎたがためである。世に公慶という人の功績を紹介出来たこと、南都の復興が江戸期になされたことを広く知らしめたことは誠に意義深い。

「南都の悲願」それは人々の栄光の時代を指すのでは無く、神仏の栄光の時代を指すものである。

神や仏に最高の礼を捧げた時代への回帰が、南都の悲願とされてきた。これに邁進し続けた上人の遺徳を偲ぶに足る展観でありえた。

「古都奈良」と、一言のもとには人は言うが、平城京より平安京へと都が遷された後も、南都は神仏の都であり続け、日本人の心の「すがた」となった土地である。しかも営々と今日迄歩み続け、これを護持してきた人々の生き様にこそ、活きた歴史を感じさせられる。

しかし、あまりにも長い間、この大切なことが、見落とされ、見過ごされてきたことであろうか。いたずらに空虚な年月を過ごしてきたことが、むしろ悔やまれよう。

過日開催された「宿院仏師展」に続き、今回の「公慶上人展」は、この闇部に光を投げかけたということに対し、安堵の心と、これからも益々、「知られざる日本」「知られざる奈良」に、光をあててもらえるものと、熱い期待を寄せるところである。

日本人が自国の文化や伝統に、誇りと自信を持ちえることが、活きた展観の意義となろうし、またその必要性を痛感する。

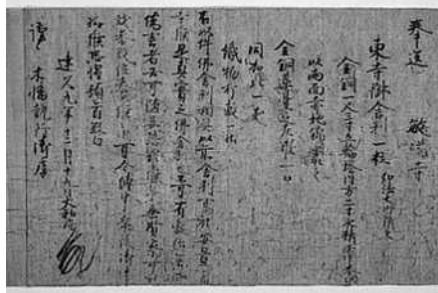
つまり、見せてやる展示から、展示品の心にせまる。そして正しい理解を導き出し、深い感銘と示唆を与える効果というものを考えさせられる企画であつたと思う。



観覧風景



◎阿弥陀如来立像(俊乗堂)(東大寺)



◎舍利寄進状(胡宮神社)



阿弥陀三尊像(西方寺)

御遠忌八百年記念特別展

大勸進 重源

東大寺の鎌倉復興と新たな美の創出
4月15日～5月28日 東西新館

一、南都炎上

◎東大寺大仏縁起下巻(東大寺) ◎平家物語(延慶本)(大東急記念文庫、平家物語「竹柏園本」(天理大学附属天理図書館) 天理記(国立公文書館) 玉葉第二十二(宮内庁書陵部) ◎法華経卷第八(運慶願經)(個人) ◎愛染明王坐像(当館) ◎地藏菩薩立像(春覚寺) 二、入唐三度聖人

◎重源上人坐像(東大寺) ◎重源上人坐像(浄土寺) ◎重源上人坐像(阿弥陀寺) ◎重源上人坐像(新大仏寺) ◎銅梵鐘(泉福寺) ◎南無阿弥陀仏作善集、重源讃状(以上、東京大学史料編纂所) ◎紀氏系図(個人) 十、二門指要鈔序私見聞、奥秘抄卷中(以上、称名寺) 玉葉第二十六(宮内庁書陵部) 采西禪師坐像(寿福寺) ◎誓願寺孟蘭盆縁起(誓願寺) 采西書状(真福寺宝生院) ◎法然上人絵伝卷四十五(知恩院) 三、東大寺復興

◎後白河法皇像(妙法院) 源頼朝坐像(善光寺) ◎文覚上人像(神護寺) ◎東大寺統要録造仏篇・供養篇 ◎鉦鼓、蓮実形柄杓 ◎菩提子念珠 自然木杖、自然木脇息 ◎源頼朝御教書(東大寺文書) ◎源頼朝書状(東大寺文書、開眼筆(模造)(以上、東大寺) 東大寺衆徒参詣伊勢大神宮記(真福寺宝性院) ◎吾妻鏡第六、第十五(国立公文書館) 秘抄第一、讀仏乗抄第三(以上、称名寺) 玉葉第三十一、第三十九、愚管抄(以上、宮内庁書陵部) ◎吾妻鏡第十四(吉川史料館) ◎法然上人絵伝卷三十(知恩院) ◎東大寺大仏殿図(醍醐寺) 東大寺曼荼羅(個人) 東大寺縁起(当館) 東大寺大仏縁起下巻 ◎紺紙金字華嚴経卷(以上、東大寺) ◎四天王立像(金剛峯寺) ◎伎楽面(治道)(東大寺) ◎伎楽面(力士)(神童寺、伎楽面(力士)(当館) ◎鰐口 ◎金剛力士納入品、金剛力士持物(金剛杵)(複製品) ◎法華堂札堂棟札 ◎元久二年重源上人勸進状(以上、東大寺) ◎釈迦如来立像納

入品(雲山変相図)(清涼寺) 重源上人相博状(個人) 東大寺造立供養記(国立公文書館) ◎西大門勸願、僧形八幡神坐像(以上、東大寺) 僧形八幡神坐像(神護寺) ◎狛犬(吽形) ◎獅子頭(以上、手向山八幡宮) ◎退耕神師坐像(浄妙寺) ◎仏頭(法華寺) 四、行基への尊崇

◎行基菩薩坐像 行基菩薩像、大僧上舍利瓶記(以上、唐招提寺) ◎行基菩薩行狀絵伝(家原寺) 行基菩薩縁起絵伝(正智院) 行基墓誌残欠(当館) 重源狭山池改修碑・拓本(大阪府、大阪狭山市) 太政官符案・撰津古文書(国立公文書館) 五、別所の経営

◎孔雀明王坐像、執金剛神立像、深沙大將立像、独鈷杵、三鈷杵、五鈷杵、俊乘房重源施入置文写(以上、金剛峯寺) ◎執金剛神立像 ◎深沙大將立像(以上、金剛院) 阿弥陀仏手 ◎阿弥陀如来立像(俊乗堂)(東大寺) ◎鉄宝塔・水晶三角五輪塔 ◎鉄鍔印 ◎周防国阿弥陀寺田畠注文並免除状 周防国司宣案(以上、阿弥陀寺) ◎周防国阿弥陀寺領田畠注文(東大寺) ◎周防国一宮造替神殿宝物等目録(玉祖神社) ◎阿弥陀如来立像(裸形) ◎菩薩面 ◎三脚卓 ◎鉦鼓 播州極楽山浄土寺来迎会記、官官旨案、重源下文案(以上、浄土寺) 浄土寺縁起(神戸大学附属図書館、将軍家政所下文案(雑古文書)(国立公文書館) ◎如来坐像(頭部、快慶作)(新大仏寺) 阿弥陀仏手(アメリカ・ハーバード大学サクラ美術館、菩薩耳(個人) 軒丸瓦、軒平瓦、平瓦(万富瓦窯出土) (瀬戸町教育委員会) 軒丸瓦、平瓦(吉井川河床出土) (岡山県立博物館) 東大寺大仏殿銘軒丸瓦、軒平瓦、東大寺、軒丸瓦、軒平瓦(吉備津宮常行堂出土) (吉備津彦神社出土) 軒丸瓦、平瓦(湯迫山浄土寺出土) (浄土寺) ◎東大寺統要録寺領章(東大寺) ◎金山寺住僧等解(金山寺) 菩薩面(吉備津神社) 石造狛犬(熊野神社) 六、重源と舍利信仰

◎金銅三角五輪塔・水晶舍利塔 ◎舍利寄進状、仏舍利相承図・重源書状(胡宮神社) ◎金銅三角五輪塔(浄土寺) ◎板彫五輪塔、水晶三角五輪塔(以上、新大仏寺) 三角五輪塔(醍醐寺塔頭金剛王院) 金銅三角五輪塔(東大寺) 一行一筆般若心経 阿弥陀經(一心寺) ◎阿弥陀如来立像(八葉蓮華寺) 遣迎院 ◎阿弥陀如来立像(八葉蓮華寺) ◎釈迦如来立像・納入品(峰定寺) ◎不動明王坐像(醍醐寺) ◎文殊菩薩騎獅像納入品(仏頂尊勝陀羅尼等)(文殊院) ◎阿弥陀如来立像・納入品(玉桂寺) 愚管抄(宮内庁書陵部) 八、宋代美術の移植

◎宋版一切経 ◎醍醐寺新要録(以上、醍醐寺) ◎五劫思惟阿弥陀如来坐像(五劫院) ◎五劫思惟阿弥陀如来坐像(東大寺) ◎阿弥陀三尊像(清浄華院) 阿弥陀三尊像(西方寺) 阿弥陀三尊像(禪林寺) ◎觀經十六觀變相圖(長香寺) ◎觀經十六觀變相圖(阿弥陀寺) ◎阿弥陀浄土圖(知恩院) ◎浄土五祖圖(二尊院) ◎法然上人絵伝卷六(知恩院) 羅漢圖(大和文華館) 羅漢圖(根津美術館) ◎五百羅漢圖(大徳寺) ◎釈迦如来立像・納入品(弥勒文殊・普賢)(清涼寺) ◎釈迦如来立像(当館) 特別陳列

大和古物 今に生きる匠の技(仮称) 6月10日～7月9日 東新館

主なる陳列品

◎奈良人形 古式奈良人形(水木十五堂旧蔵) 岡野松壽 ◎保伯武者人形 保伯 鹿香合・保伯 十牛香合 森川杜園 ◎後高砂・立雛 下図集、瀬谷桃源 ◎初世 立雛、竹村履中斎 ◎走り大黒、寺瀬山樂 ◎後高砂 ◎奈良漆器 吉田立斎 ◎密陀絵給盆(御物写) 北村久斎 ◎散米盆、吉田包春 ◎短冊写、堀部恒哉 ◎円明院型菓子器、栗原徳藏 ◎手箱、十徳 ◎赤膚焼 古赤膚茶碗 ◎雪花茶碗 伊羅保 ◎斗々屋・奈良絵印ヌケ、青木木兎 ◎黒茶碗、奥田木白 ◎雲錦茶碗、茶釜、錦風呂 御福香合 郡人形 海老殿斗鎮、山口戸方 ◎鶴亀茶碗 ◎宗品焼 上田宗品 ◎大香炉 ◎春日御土器師 浅田九兵衛 ◎麻炆 ◎土人形 安井出雲 ◎人丸像 茄子香合 富士山香炉 ◎細刻 岡橋三山 ◎竹硯一具 ◎彫刻 加納鏡哉 ◎大黒恵毘寿像 茶則、市川鏡

琅 ◎寿老像、池野鏡寛 ◎大黒像、杉村鏡耕 ◎白鹿像 ◎乾漆 細谷而楽 ◎百翁 ◎金一 祐森米斎 ◎神照寺華籠 ◎陶芸 朱北樵 ◎青磁香炉 ◎指物 坂本曲斎 ◎春日琉璃燈籠 ◎入澤 黒田壺中 ◎古式大黒天 ◎乾漆 宮澤甲輔 ◎古式大黒天 ◎関連絵画 内藤其淵 ◎十二月鹿屏風 双 ◎百鹿図 二枚折屏風、岡野松壽 ◎奈良文人寄書、森川杜園 ◎白梅図 和歌扇子、柳沢堯山 ◎茶名書、奥田木佐 ◎手紙、加納鏡哉 ◎鍾馗図、吉田包春 ◎捍撥面騎象胡象圖(御物写) 朱北樵 ◎二枚折屏風 一、二

平堂展

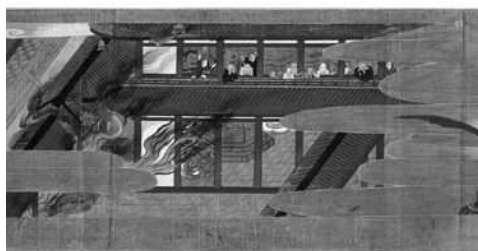
佛教美術の名品(彫刻) 4月4日～7月9日 本館

奈良時代の仏像

◎脱活乾漆 木造梵天立像 ◎脱活乾漆 木造伝教脱菩薩立像(以上、秋篠寺) ◎銅造法華説相図 長谷寺 ◎木造菩薩立像(金竜寺) ◎銅造誕生釈迦仏立像及び灌仏盤 ◎銅造光背(二月堂本尊所用) ◎以上、東大寺 ◎木心乾漆光背(聖林寺) ◎木心乾漆文殊菩薩坐像 葉師寺 ◎銅造葉師如来坐像、銅造誕生釈迦仏立像(以上、当館) ◎銅造誕生釈迦仏立像(正眼寺) ◎銅造誕生釈迦仏立像(悟真寺) ◎脱活乾漆舍利弗立像 ◎脱活乾漆目捷連立像 ◎脱活乾漆那羅立像(以上、興福寺) ◎木造十一面観音立像(葉師寺) ◎木心乾漆法義淵僧正坐像(岡寺) ◎木心乾漆阿闍如来坐像(西大寺) ◎平安・鎌倉時代の仏像 第2室 ◎木造伝行賀坐像 興福寺 ◎木造閻魔王坐像、木造泰山府君坐像(以上、東大寺) ◎木造藥師如来坐像(元興寺) ◎木造十一面観音立像(葉師寺) ◎木造十一面観音立像(勝林寺) ◎木造十一面観音立像 地福寺 ◎木造千手観音立像(園城寺) ◎木造藥師如来坐像 当館 特集展示 ◎新薬師寺伝来の十一面観音像 第3室 ◎木造十一面観音立像 新薬師寺 ◎木造十一面観音立像 当館



◎金銅三角五輪塔(浄土寺)



◎東大寺大仏縁起下巻(東大寺)



◎菩薩面(浄土寺)

※この段の写真すべて
特別展「大勸進 重源」より

特集展示

法隆寺伝法堂・乾漆造の諸尊像

第3室

◎脱活乾漆阿弥陀三尊像「中の間」(法隆寺)・◎木心乾漆阿弥陀三尊像「東の間」(法隆寺)

ヘガンダーラ・中国・朝鮮半島の彫刻

第4・6室

＊ガンダーラ＊

石造菩薩立像、石造仏伝図浮彫(以上当館)・ストウツコ如来頭部・ストウツコ如来坐像・ストウツコ菩薩立像・ストウツコアトラス像、石造貴婦人群像(以上、個人)

＊中国＊

銅造三仏並坐像、方形独尊坐像、方形阿弥陀三尊像、方形独尊像、小型独尊像、石造三尊像、石造十一面観音立像(以上、当館)・銅造三尊像、銅造菩薩坐像、銅造力士立像、木造諸尊像、多宝塔像、石造如来頭部「雲岡」、石造菩薩頭部「鞏県」、石造五尊像、石造三尊像、石造浄土像、石造三尊像(以上、個人)

＊朝鮮半島＊

銅造如来立像(光明寺)、銅造如来立像(当館)

檀像

第7室

◎木造十一面観音立像(当館)・◎木造弥勒坐像(東大寺)・◎木造維摩居士坐像(石山寺)・◎木造十一面観音立像(海住山寺)

伎楽面「小金銅仏」

第8室

◎伎楽面「治道」・◎伎楽面「迦楼羅」・◎伎楽面「毘盧」・◎伎楽面「力士」・◎伎楽面「醉胡王」・◎伎楽面「醉胡徒」・◎銅造観音菩薩立像(観心寺)・銅造観音菩薩立像、銅造菩薩立像(以上、当館)・銅造菩薩半跏像(神野寺)・銅造菩薩半跏像(東大寺)・銅造観音菩薩立像(金剛寺)・銅造観音菩薩立像(当館)

平安時代後期の仏像

第9室

◎木造十一面観音立像(松尾寺)・木造釈迦如来坐像(法隆寺)・木造菩薩半跏像、木造不動明王立像(以上、個人)・◎木造増長天立像(称名寺)・◎木造増長天立像(法明寺)・◎木造不動明王坐像(園城寺)・木造大日如来坐像(元興寺町)・木造阿弥陀如来坐像、木造阿弥陀如来

坐像、木造日天立像(以上、当館)・木造阿弥陀如来坐像(金剛寺)

鎌倉時代の仏像

第10室

木造弥勒菩薩立像(林小路町)・◎木造地藏菩薩立像(東大寺)・◎木造馬頭観音立像(浄瑠璃寺)・◎木造不動明王坐像(正寿院)

神仏習合の彫像

第11室

◎銅造蔵王権現立像(大峰山寺)・木造蔵王権現立像(当館)・◎木造八幡三神坐像(葉師寺)・木造童子形坐像、木造男女神像(以上、当館)・◎木造大將軍坐像(大將軍八神社)・木造大將軍神坐像(当館)

獅子・狛犬

第12室

◎木造狛犬、木造牛頭・◎木造獅子、木造獅子以上、当館

東大寺の十二神将像

第13室

◎木造十二神将立像「十二軀」(東大寺)

平常展

仏教美術の名品

(書跡・絵画・工芸・考古)

6月24日～7月30日 西新館

書跡

大智度論卷第六十六(既多寺知識經)、法集經卷第三(五月一日經)以上、当館、増阿含經「善光末印經」(正曆寺)・◎大般若經「魚養經」(葉師寺)・道神足無極變化經卷下「神護寺經」・◎金光明最勝王經卷第一「後字多天皇筆」(以上、当館)・◎法華經「長谷寺」・大毘盧舍那成佛神變加持經卷第四「消息經」・尊円親王寂山持堂記・◎青蓮院寺領目録「門葉記」・雜見集・◎七大寺日記・◎類秘抄「大自在天以下」・◎東大寺開田図(以上、当館)

絵画

◎龍樹菩薩像(天台高僧像のうち)・(一乗寺)・◎善導大師像(知恩寺)・◎一行像・金剛智像(眞言八祖像のうち)・(神護寺)・法然上人像(十輪寺)・◎明空上人像(当館)・◎興正菩薩像(新大仏寺)・◎忍性菩薩像(大福田寺)・◎夢窓国師像(慈照院)・(休禪師像)・◎西界曼荼羅(西大寺)・◎法華曼荼羅(松尾寺)・◎一字金輪曼荼羅(当館)・◎不動明王二童子像(瑠璃寺)・◎伊舎那大像(十二天像のうち)・(西大寺)・五大虚空蔵菩薩

図像(葉師寺)・十卷抄(仏頂等)・金胎仏面断簡(金剛舞菩薩)・金胎仏面断簡(無量光菩薩)・不動明王図像(以上、当館)・◎金光明最勝王經金字宝塔曼荼羅(大長寿院)・法華經曼荼羅(七幅のうち第五・七幅)・◎法華經金字塔曼荼羅(八幅のうち第一・四幅)・談山神社)・◎扇面法華經冊子断簡(西教寺)

工芸

春日龍珠箱(当館)・◎金銅火爐宝珠形舍利容器(海龍王寺)・◎四方殿舍利厨子(能満院)・春日神鹿舍利厨子(当館)・◎五輪塔嵌装舍利厨子(不退寺)・春日宮曼荼羅彩繪舍利厨子(個人)・◎密観宝珠嵌装舍利厨子(般若寺)・摩尼宝珠曼荼羅彩繪舍利厨子(個人)・愛染明王香合仏(当館)・◎金銅透彫華鬘(中尊寺金色院)・◎金銅種子華鬘・◎刺繡三味耶幡、銅梵鐘(以上、当館)・◎銅鉦鼓(手向山八幡宮)・◎銅鑼口、銅孔雀文、銅孔雀文(以上、当館)・◎銅孔雀文、銅孔雀文(以上、長谷寺)・金銅孔雀文(葉師寺)・◎金銅琵琶(丹生都比売神社)・◎金銅密教法具(嚴島神社)・金銅独鈷杆、金銅三鈷杆、金銅割五鈷杆(以上、当館)・銅鍍銀五鈷杆、金銅宝珠杆(以上、個人)・銅九頭龍杆(談山神社)・金銅九鈷杆(上池院)・◎銅三鈷鏡(円福寺)・金銅五鈷鈴(高山寺)・銅五鈷種子鈴(個人)・金銅五鈷大明王鈴(天河神社)・銅九鈷鈴(長谷寺)・金銅金剛盤(高山寺)・◎金銅金剛盤(巴陵院)

考古

土偶(杉沢遺跡出土)・(当館)・銅鐸(妙国寺)・人物線刻裝飾付子持壺(当館)・◎粟原寺伏鉢(談山神社)・瓦塔(静岡県三ヶ日町出土)・素弁蓮華文軒丸瓦(横井庵寺出土)・素弁蓮華文軒丸瓦(山田寺出土)・復弁蓮華文軒丸瓦(川原寺出土)・単弁蓮華文軒丸瓦(均整唐草文軒平瓦(山村庵寺出土)・復弁蓮華文軒丸瓦(均整唐草文軒平瓦(東大寺出土)・火頭形三尊像(伝橋寺出土)・六角形埴輪(天華寺出土)・(以上、当館)・三尊像(南法華寺)・◎鍍銀経箱・紺紙金字法華經(金峯山経塚出土)・金峯神社・飛鳥文陶製外筒(伝愛媛県松山市出土)・銅製経筒・小銅仏(伝福岡県出土)・◎銅製経筒・滑石製外筒(伝福岡

県出土)・◎滑石製弥勒如来像(鉢形経塚出土)・(以上、当館)

特集展示

玉器埋納の流れ―副葬・鎮壇・奉納―

銅矛(愛媛県四国中央市出土)・銅鏡・鉄形石車輪石右鋼(北和城南古墳出土)・◎大刀・鉄剣(天和天神山古墳出土)・玉類金製耳飾ほか(星塚古墳出土)・(以上、当館)・◎大刀・銅鏡ほか(東大寺金堂鎮壇具のうち)・東大寺・銅製経筒・大刀・銅鏡・青白磁合子(伝近畿地方出土)・当館・玉類金系ほか(中宮寺塔基礎上面出土)・(中宮寺)・◎玉類(元興寺塔基礎出土)・(元興寺)

特別出陳

国宝 木心乾漆薬師如来立像

(唐招提寺金堂)

本館 第1室

平常展

中国古代青銅器(坂本コレクション)

本館 第14室 第15室

中国・商殷)・漢時代までの青銅器の逸品を展示しています。

爵、觚、觥、長頸尊、觚形尊、方彝、卣、罍、鼎、鬲、簋、豆、盤、匜、盥、甗、甗、鐘、鈎、扁壺、蒜頭壺、甗、博山炉、鎮子、鏡など

パネル展示

修復文化財

地下回廊

◎重要文化財 絹本着色四十
九化仏阿弥陀来迎図(京都 光明寺)

彫刻

◎重要文化財 木造持国天像

〔内山永久寺伝来〕(奈良 東大寺)

工芸

◎国宝 毛抜形太刀〔若宮御

料古神宝のうち〕(奈良 春日大社)

パネル展示

地下回廊

◎重要文化財 光学的調査

以上すべての展示において、出陳作品を一部変更する場合があります。

奈良博 NEWS

国宝 薬師如来立像が

お帰りになります

平成12年春以来、6年以上の長きにわたり、本館中央に展示されてきた唐招提寺金堂・薬師如来立像（国宝）は、本年7月に同寺に戻り、寺内の工房にて修理されるはこびとなりました。奈良時代の金堂の、唯一の現存遺構として余りにも有名な唐招提寺金堂は現在、10年計画の解体修理を受けています。

寺伝法堂の諸尊は寺内では非公開であり、唐招提寺薬師像が寺外で公開される機会は、今後ないと思われます。特別展にお越しの方も、本館平常展をどうかお見逃しなく。
なお本館の展示は、8月初旬に内容を一新して再オープンします。こちらもお併せてご期待下さい。

（企画室長 稲本泰生）

平成21年の完工時には、仏堂内の広大な空間に、修理を終えた3体の巨像（盧舎那仏坐像・千手観音立像・薬師如来立像、いずれも国宝）が並び、同寺ならではの偉観が戻ってきます。

また、第3室に出陳中の法隆寺伝法堂・阿彌陀三尊像（2組、重要文化財）も、修理のため、7月初旬を以て展示を終了させていただきます。

※上記の移動にともなう諸作業のため、本館は7月10日から31日までお休みします。本館のお休み中も、新館での展示は通常どおり開催いたします。皆様のご来場をお待ちしております。

返還を控え、以上の諸像を間近にご覧いただけるのも、あとわずかとなりました。法隆



●木心乾漆薬師如来立像（唐招提寺）

●公開講座●

●特別展 大勸進 重源 東大寺の鎌倉復興と新たな美の創出
4月22日（土）
「重源の五台山文殊信仰と作善—東大寺復興をめぐる—」
谷口耕生（当館研究員）

5月6日（土）
「東大寺領荘園と別所の経営」
野尻 忠（当館研究員）

5月13日（土）
「重源の舍利信仰と美術—三角五輪塔を問い直す—」
内藤 栄（当館工芸考古室長）

5月20日（土）
「重源の生涯とその事績—仏像を中心に—」
岩田茂樹（当館美術室長）

●特別陳列 大和古物 今に生きる匠の技（仮称）
6月24日（土）
「近世大和の文化」 岡本彰夫（春日大社権宮司）

※時間：13:30～（13:00より整理券を配布）
※会場：当館講堂 ※定員：200名 ※聴講無料

●ギャラリー・トーク●

4月12日（水）「唐招提寺金堂薬師如来立像」（本館第1室）
稲本泰生（当館企画室長）

5月10日（水）「重源と宋時代の美術」（講堂）
北澤菜月（当館研究員）

6月14日（水）「東大寺公慶堂地藏菩薩立像と快慶」（本館第10室）
鈴木喜博（当館首席研究員）

※時間：14:00～ ※入館者は聴講自由

◆2006年10月1日 観覧料改定のお知らせ

国立博物館では、2006年10月1日より平常展観覧料等の改定を行うことになりました。国立博物館は2006年度から独立行政法人として第2期中期計画期間に入りますが、自己収入として確保すべき予算額が前年度に対し、大幅に引き上げられます。ご入館いただく皆様の負担増になることはまことに心苦しく存じますが、今後も文化財の収集・保管・展示・調査研究の事業を継続していく必要があります。さらに施設の耐震対策等の財源も新たに必要となっています。

国立博物館の置かれている状況に鑑み、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2006年10月1日から改定となる平常展観覧料・友の会カード（パスポート）料金
奈良国立博物館・京都国立博物館

一般500円（団体400） 大学・高校生250円（団体200）

中学生以下と満70歳以上の方は無料

友の会カード（パスポート）一般3000円 学生2000円（現行のまま）

東京国立博物館

一般600円（団体500） 大学生400円（団体300）

高校生以下と満70歳以上の方は無料

パスポート一般4000円 学生2500円

九州国立博物館 料金改定はありません

*団体は20名以上

●奈良国立博物館賛助会員通信

2006年3月31日現在、個人会員16名、団体会員9団体および特別賛助会員3団体の登録を頂いております。

新規会員となられた方のご芳名をあげさせていただきます。

【個人会員】 喜寿村康二様、鷲塚泰光様、神鳥一雄様

【団体会員】 株式会社 乃村工藝社 様

株式会社 きんでん 奈良支店 様

【特別会員】 奈良国立博物館 結の会 様

*賛助会員に関するお問い合わせは、
奈良国立博物館 渉外課 賛助会員担当まで。 0742-22-7771（代）

●展覧会日程●

	4 月	5 月	6 月
本 館	平常展〔彫刻〕・〔中国古代青銅器〕		
東 新 館	特別展 大勸進 重源 東大寺の鎌倉復興と新たな美の創出（4/15～5/28）		特別陳列 大和古物（6/10～7/9）
西 新 館	平常展〔絵画・書跡・工芸・考古〕（6/24～）		

展示品の 見どころ

三角五輪塔

江戸時代
醍醐寺塔頭金剛王院所蔵
総高39.5cm

重源の舍利信仰を大まかにとらえると、阿弥陀信仰と舍利信仰の二本立てであったと考えられよう。重源は伊賀や周防などの各地に別所を経営したが、そこには阿弥陀如来像と舍利塔とが祀られた。当時、阿弥陀念仏を広めた僧侶は専修念仏を推奨したが、重源はそれに舍利信仰を共存させたところに特徴があった。

今日重源が造立した舍利塔は、阿弥陀寺鉄宝塔、浄土寺金銅三角五輪塔、胡宮神社金銅三角五輪塔、新大仏寺水晶三角五輪塔の4基が伝わっており、また当初のものが焼失したため桃山時代に再興された品に東大寺金銅三角五輪塔がある。この五基はいずれも外容器か内容器のどちらかに「三角五輪塔」と呼ばれる、火輪を正四面体に形作った五輪塔を用いている。五輪塔とは古代インドにおいて宇宙を構成すると考えられた地・水・火・風・空の五大要素（五輪）を、それぞれ四角、球体、三角、半円、宝珠形で表し、これを積み上げて塔婆としたものである。近世には墓石として宗派を問わず用いられたが、本来は密教から発生したものであり、密教では最高尊である大日如来を象徴する。五輪塔の火輪は宝形造の屋根を思わせる四角錐が一般的であるが、三角五輪塔は火輪は三角であるという教義に忠実に従い、どこから見ても三角となるよう正四面体とされたのであろう。

三角五輪塔の作例は重源の5作品以外にはほとんど見ることができないため、これを重源の創案とする見方が強い。しかし、重源が若い時代を過ごした醍醐寺には重源以前にすでに三角五輪塔が存在していたことを伝える史料が残されている。それは上醍醐

円光院の地下に埋葬された白河法皇中宮賢子（応徳2年〔1085〕崩）の遺骨を入れた金銅五輪塔である。この五輪塔は江戸時代の慶長11年（1606）に偶然発掘され、詳細な記録と実測図が取られた後、再埋納された。もしこの記録が本物ならば、重源の舍利塔を百年以上も遡ることになるので、三角五輪塔は重源のオリジナルではないことになる。しかし、この史料を疑問視する研究者もあり、そのためそれほど注目されてこなかった。

重源展の準備で醍醐寺塔頭金剛王院を訪れ、未紹介の三角五輪塔を目にする機会を得た。塑造で外面に和紙を貼り、黒漆を塗って金箔を押すという珍しい造りで、技法より近世の作と考えた。一見して風輪と空輪が重源の三角五輪塔と比較して著しく小さく、全体に細身であるという印象を受け、これも製作年代を近世に推定させる要因であった。しかし、後日円光院の金銅五輪塔の実測図をもとに復元図を作成していた時、これが風輪と空輪が小ぶりの細身のスタイルであることに気が付いた。つまり、金剛王院三角五輪塔は過渡期の写し崩れではなく、11世紀のスタイルを受け継いでいることになる。では、なぜ近世の作品が11世紀のスタイルを有しているのだろうか。想像をたくましくすれば、これは慶長11年に発掘された円光院金銅五輪塔を写した作品ではないかと考えられる。とすれば、金剛王院三角五輪塔の存在は、慶長11年の円光院金銅五輪塔の発掘が真実であったことを伝えていることになる。金剛王院三角五輪塔は重源の三角五輪塔の写しというより、三角五輪塔の本来である醍醐寺の伝統を受け継ぐ作品であることになる。



（工芸考古室長 内藤栄）

※特別展「大勧進 重源」（4/15～5/28）で展示

開館予定(4月～6月)

■開館時間 9時30分～17時
(ただし4月21日以降の金曜日は19時まで)
※いずれも入館は閉館の30分前まで

■休館日 月曜日(ただし5月1日は開館します)

■観覧料金

特別展 大勧進 重源
— 東大寺の鎌倉復興と新たな美の創出 —

	大人	大学・高校生	中学生以下
当日	1,000円	700円	無料
前売	900円	600円	
団体	900円	600円	

平常展・特別陳列

	大人	大学・高校生	中学生以下
一般	420円	130円	無料
団体	210円	70円	

* 団体は責任者が引率する20名以上。



〔交通案内〕近鉄奈良駅から徒歩15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅からバスで「氷室神社・国立博物館」下車すぐ

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒(90円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。

 **奈良国立博物館**
Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町50(奈良公園内) TEL. 0742-22-7771 FAX. 0742-22-7221 テレホン・サービス 0742-22-3331 ホームページ(URL) <http://www.narahaku.go.jp/>